

今村温州(いまむらうんしゅう)

登録番号：第206号(種苗名称登録)
登録年月日：昭和43年6月28日
登録者：今村芳太(福岡県久留米市
草野町吉木1282番地)

育成者：今村芳太
来歴：「尾張温州」の変異樹
育成地：福岡県久留米市草野町

特 性

■栽培特性

樹勢は極めて強く、温州みかんの中では最強に属する。樹姿は若木時には直立性であるが結果期に達すると開張してくる。枝梢の発生は少なく長大で節間が長い。枝の分岐角度が狭く裂けやすい。若木時は生長が特に旺盛で樹冠の拡大が早い。若木時から着花は見られるが、結実性が不良で初期収量が少ない。樹が密植になると枝が立ち着花が減少する。

第2次生理落果の後半に着果している枝から夏梢が発生してほとんどの果実が落果してしまう。細く短い枝に着花・結実しやすい。樹が落ち着いて春梢が細く短くなると豊産性であるが、一度着果過多にすると隔年結果しやすくなる。

「今村温州」の珠心胚実生から選抜された「今村No.9」は、さらに樹勢が旺盛で枝梢も長大となり、葉も大きい。

■果実特性

果実の大きさは中位で玉揃いは極めて良好である。果形は扁平で油胞が小さく果面は平滑。果皮は薄く果実のしまりが良く浮き皮になりにくい。熟期は遅く「十万温州」より晩熟で12月上中旬頃に完全着色する。果皮色は濃燈黄色で完熟すると美しいが、採収が早いとやや淡く黄色を帯びる。果汁の糖度およびクエン酸含量が高く、浮き皮になりにくい。そのため貯蔵性に富み長期貯蔵できる。肉質は柔らかいがじょうのう膜は厚くて硬い。12月中旬頃収穫、貯蔵後の2～3月頃には風味が良く、果汁が濃厚で食味良好である。「今村No.9」は、「今村温州」より糖度は高く減酸も早くて熟期が10日程度早い。果皮色はやや濃い収穫期が遅れると浮き皮が発生する。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

そうか病の発生は他の温州と同程度で、かいよう病には「青島温州」より強い。その他の病虫害に対しては高糖系温州の一般的な防除体系に準じて問題ない。

初期生育が旺盛で樹勢が極めて強い。耕土の深い肥沃地は避け、日当たりの良い耕土のやや浅い傾斜地が適している。密植では立ち性となり結実しにくいので、常に隣接樹との枝の交差を避けた独立樹とし、整枝・剪定においては、樹冠内部まで日当たりが良くなるような配枝と、軽い間引き程度にとどめることが肝要である。細く短い春梢に着花・結実しやすいので、生産が安定するまでは枝梢の発生を多くするための芽かき管理等をていねいに行う必要がある。7月上旬以降に夏芽が発生した場合の芽かきは、3～5cmの伸びを目安として2～3回実施すると結実が安定する。また、台木にヒリュウを使うと樹が小型化し、生産が安定して果実品質も向上する。

■地域適応性

温州みかんの中では熟期が遅い品種で、浮き皮の発生が少ないため、近畿地方以南の西南暖地に適している。樹勢が極めて旺盛で樹冠拡大が早いことから、火山灰や花崗岩土壌で耕土の深い地域での植栽を避け、保水・排水が良好で比較的耕土の浅い地域を選ぶことが大事である。

(高原利雄)